

幸報ふじ

発行：佐賀市富士支所
編集：幸報ふじ事務局
(一般社団法人スマイルアース)
TEL：0952-57-2341
FAX：0952-57-2217
hoonoki@smile-e.org
住所：富士町藤瀬724-4

コロナ明けのまじここれから 古湯・熊の川の真価が問われるまじこになります。 みんなを考えていきたいです。

今回は、一般社団法人古湯・熊の川観光コンベンション連盟理事長、山口澄雄さん（古湯地区）にお話を伺いました。



お話を伺ったのは、古湯・熊の川温泉観光コンベンション連盟が本部を置く富士町観光案内所。その日はちょうど、翌日から行われる「九州地方知事会議・九州地域戦略会議」の方々をお迎えする準備に大忙しで、観光案内所に常駐の村岡さんは、生け花のためのススキや秋の花を採りに山へお出かけ中でした。会議当日の夜はおもてなしとし

て、コロナ明け初めての「はしご酒」を開催。沖縄県山口県を含む九州の知事9名、九州経団連の会長、九州同友会の会長といった方々が参加されるこの大きな「戦略会議」が、嬉野や武雄などの名高い温泉地ではなく、ここ古湯で行われるということとで、お迎えの準備をされる方々は、とても張り切っている様子でした。観光案内所のテーブルにも、会場で使われる「名尾和紙」でできたランタンがたくさん用意されていましたよ。



ところでみなさんは、古湯・熊の川温泉の「はしご酒」を体



晴好雨奇 ふじ俳句同好会 (二十八)
写真拭くそっとキッスを秋彼岸
せつ子
七日間のらりくらの秋彼岸
泰子

「その前はどんなお仕事をしていたんですか？」
という私の質問に、
「44歳から56歳は、熊本市役所の前にあります九州郵政局で全通信労働組合の書記長をやっていました」

というお答え。学校を卒業されてから1年間だけ民間の会社に勤務した後、佐賀中央郵便局で12年間実務に就き、その後は全通信労働組合（旧郵政省、旧総務省郵政事業庁職員労働組合）での仕事に専従。佐賀県本部の書記長も務めました。2年に1度の信任投票があり、常に身を律せねばならないという緊張感がありました。一番やりがいがあったのは、九州の全通信労働組合を束ねるポストであった熊本時代だと山口さんは言います。

自分の思うような仕事ができるというやりがいのある仕事でしたが、プレッシャーも大きく、肉体的にも精神的にもハードで、心療内科に通ったこともあったほどでした。何度かやめようと思ったこともあったけれど、組合員さんたちの存在が支えとなり、続けることできたそうです。子どもの頃の夢を訊いたところ、

「子どもの頃から人と話すこと、人とコミュニケーションすることが好きだったので、みんなと一緒にやれるような仕事をしたいな、と漠然と思っていました」

と山口さん。労働組合にしても、観光コンベンション連盟にしても、人とのコミュニケーションや人と協力することが大切なお仕事です。山口さんは、子どもの頃の夢を叶えたいと言いますね。

2017年4月1日に立ち上げられた一般社団法人古湯・熊の川温泉観光コンベンション連盟は、観光業およびそれを応援してくれる約30の企業が加盟しています。連盟の仕事としては、市や県からの委託業務、旅行会社との連携、古くなった看板や地図などの作り替えを行政に依頼、ふるさと納税の返礼品となっ

ている旅館ペア券の取り扱い、宿泊や旅行プランのご案内、紅葉・桜・しゃくなげ園などの情報発信などがあります。
コロナ禍においては、佐賀市による支援事業の窓口でもありました。



くれるのか。そのとき、真価が問われることになりました。みんなを考えていかなければいけません」
由布院や嬉野のような有名観光地とは違う、この静かな環境を生かした古湯・熊の川のあり方を模索していきたいと山口さんは考えています。



山口さんの趣味は読書。家本が2千5百冊あったこともあるという読書家です（積読も多いそう）。枕元にはいつも本があり、夜の10時から11時頃に本を読むのが楽しみです。何でも手あたり次第に読むということですが、金融論などの専門書も勉強のために読むことが多いそう。そんな勉強家の山口さんですから、これから正念場を迎える古湯・熊の川温泉の未来を明るくするアイデアが、きつと湧いてくるはず。それでも、柔軟で新しいアイデアを出してくれるような若い男性職員さんがもう1人くらいいてくれたら、と山口さんは願っているそうです。
(記事 恵良五月)

